

2009年度(平成21年度) 卒業論文

チームスポーツ競技における
「個」の育成プログラム

-中学校サッカー部を対象とした研究-

環境情報学部

(学籍番号：70544580)

佐瀬 宏樹

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス

はじめに

本研究は中学生を対象としたサッカーの競技力向上を目的とする研究である。競技力の向上には二種類の要素があると考え、一つは技術的スキルの獲得。競技力を直接的に向上させる要素で、練習を繰り返し行っていく中で様々な技術を身につけ洗練していくものである。もう一つはプロセス構築スキル。技術力を向上させるために必要であると考え、自己管理能力や計画性を意味する。そこで本研究では後者のプロセス構築スキルに着目し、以上の要素を獲得するための目標設定シートを開発し研究をおこなった。その理由はプロセス構築スキルの獲得は日常生活を送る上でも必要となる重要な要素であると考えたためである。

杉山氏はスポーツ・体育場面で獲得されたスキルやその状況における心理特性は、日常場面における行動にも少なからず影響していると述べている。また自身の研究の中で競技社会的スキル¹⁾は練習によって高度化させることが可能であると考えられており、スポーツ場面における適切なスキルトレーニングによって日常での社会的行動を増加させることができる可能性が示唆されたとも述べている。

上記のプロセス構築スキルを獲得するために、筆者は「目標設定におけるプロセス」に着目した。目標設定のプロセスには大きく分けて3つの要素があると考え、一つは問題解決能力の育成。ただ目標を設定するだけでなく、目標を達成するために具体的に何をしたら良いのか自分で考えるための能力の育成である。この作業を繰り返すことで目標設定の一連のプロセスを習慣化させ定着させることが重要であると考え、

もう一つは思考力の育成。頭の中でだけで考えるのではなく、実際に紙に書き出すことで自分の考えが整理されやるべきことが明確になり、やるべきことをより明確にすることができる。と考える。

そして最後に自己認識。シートは基本的に自分自身の振り返りを意図して作成している。普段の自分のプレーを振り返ることで自分自身の短所や長所を分

¹⁾ 競技場面において他者との関係や相互作用を巧みに行うために、練習して身につけた技能

析し, 自分自身で理解する. 自分を知るということは効率よく最大のパフォーマンスができるということに繋がると考える. 以上が目標設定に着目した理由である.

本論文の前半では開発したシートの紹介と検証をおこない, 後半では実施したシートの検証をおこなっている.

目次

第 1 章 序論	7
1.1 研究背景	7
1.2 関連研究	7
1.3 本研究のねらい	8
第 2 章 研究仮説と実践計画	9
2.1 研究仮説	9
2.2 計画・方法	9
第 3 章 プログラムの実践	10
3.1 意識改革プログラム	10
3.1.1 実施目的	10
3.1.2 実施日	10
3.1.3 対象	10
3.1.4 目標設定シート内容	10
3.1.5 結果	11
3.1.6 考察	12
3.2 自己管理プログラム	18
3.2.1 実施目的	18
3.2.2 実施日	18
3.2.3 対象	18
3.2.4 目標設定シート内容	18
3.2.5 結果	19
3.2.6 考察	19
3.3 習慣化プログラム	25
3.3.1 実施目的	25
3.3.2 実施日	25
3.3.3 対象	25

3.3.4	目標設定シート内容	25
3.3.5	結果	25
3.3.6	考察	26
第4章	検証	31
4.1	アンケートによる検証	31
4.1.1	カテゴリ間における平均値の比較	31
4.1.2	t検定による各項目間での比較	41
4.2	ポラリスによる検証	43
4.2.1	分析ソフト	43
4.2.2	実施日	43
4.2.3	結果と考察	43
4.3	振り返りによる検証	45
4.3.1	実施日	45
4.3.2	結果と考察	45
4.4	インタビューによる検証	46
4.4.1	実施日	46
4.4.2	対象	46
4.4.3	インタビュー内容	46
4.4.4	結果	47
4.4.5	考察	48
第5章	結論	50
第6章	今後の課題	52
	引用・参考資料	53
	謝辞	54

(資料)目次

(資料1)	意識改革プログラム	13
(資料2)	自己管理プログラム	21
(資料3)	習慣化プログラム	27
(資料4)	アンケート原稿	33
(資料5)	アンケート因子分析結果	37
(資料6)	第1回アンケート統計結果	38
(資料7)	第2回アンケート統計結果	39
(資料8)	第3回アンケート統計結果	40
(資料9)	ポラリスによる言語分析	44

第 1 章 序論

1.1 研究背景

本研究はサッカーの競技力をより効果的に向上させることを目的としている。しかし競技力を向上させるためにはただ練習するだけでは不十分であり、個人個人が目的を持ちその目的に向かって努力することが必要であると考え。そこで本研究では個人個人が目的を持つための一つ的手段として独自にシートを開発し作成した。そしてこのシートを利用することで目標到達までのプロセスを体系的に学びとり、競技力の向上に繋げることが目的である。

1.2 関連研究

近年において様々なスポーツ関係者が本や雑誌、論文を通じてスポーツの教育的側面の重要性について論じている。

メジャーリーガーの松井秀貴選手は自身の著書の中で心の構え方について言及している。様々な逆境が自分の身に押し寄せてきたとき、その事実に対しどのように考えどのような考えで物事に取り組んだら良いかを長年のスポーツ人生から学びとっている。またスポーツドクターである辻秀一氏は自身の著書の中で「社会力」という概念について述べている。辻氏によると社会力とは本番に強くなる力や社会の中で発揮する力、生き甲斐をもって生きていく力などを表している。即ち心・技・体における「心=こころ」の力にあたるものが社会力であると述べている。またこの社会力のヒントはスポーツの中にあると記し、スポーツにおける本番の試合は社会の縮図そのものであると言及している。このように第一線で活躍しているスポーツ関係者もスポーツの教育的側面の重要性を訴えていることがわかる。

また津田氏は自身の論文の中で、スポーツや運動経験はアスリートに多くのこ

とを教え学びとることができ、スポーツや運動経験で学んだ心理社会的スキルを実生活にいかにかに生かすか、あるいは自分の生き方にどのように取り組むことができるかという議論が必要と述べている。またスポーツ競技者に対するインタビューの中で、スポーツを継続することによって身を持って様々なことを学び取ることができるという考察をおこなっている。また同時にスポーツ経験が自身の貴重な経験として直実に「生きる力」を学び取り、スポーツをかけがいのない自己成長体験として捉えていると論じている。このような考察からも、スポーツを行うことで競技力の向上のみならず、生きるために必要な要素も獲得できるということが考えられる。

そして津田氏の論文の中では米国におけるスポーツ競技者に対する教育プログラムが紹介されている。その内容は学業向上のコミットメント・個人的発達へのコミットメント・キャリア開発へのコミットメント・競技力向上へのコミットメント等と、具体的なスキルの内容が挙げられている。

以上のように、スポーツの教育的な内容は多くのスポーツ関係者によって研究がなされている。そこでこの議論を基本におき、本研究ではスキル獲得のために具体的なプログラムを開発し、実際に効力があるのかを検証するという方針をとった。

1.3 本研究のねらい

競技力を向上させるための要素は多く存在するが、本研究では「目標設定」という要素に焦点をあてて研究を行った。その理由は2点ある。一つは目標設定を行うことで目指すべき方向性が決まり、その目標に向かってやるべきことを明確にすることができるからである。この作業を行うことで効率良く、そして集中して練習に取り組むことができ、競技力を早く向上させることができると考える。もう一つは目標設定を行う過程で必要となる自己分析と問題解決のスキルを獲得するためである。設定した目標を達成するには、現在の自分を知るという自己分析の作業や問題を解決するための方法を考える作業が必要であると筆者は考えている。この作業は普段生活を送っていく上でも大変重要な作業である。目標設定という作業を行う過程で必要となる自己分析と問題解決の

スキルを育成することでスポーツだけでなく日常の生活においても能力を発揮できるようになることを意図している. 以上の2点が目標設定に焦点をあてて研究を行った理由である. 目標設定に焦点を当てることで上記のスキルを獲得すると同時に競技力の向上を図るとというのが本研究のねらいである.

第2章 研究仮説と実践計画

2.1 研究仮説

本研究の仮説は, 目標設定シートを実施することで競技力向上を図ることができるというものである. また目標設定を行うことで, 目標設定の過程で必要となると考える2つの要素「自己分析」と「問題解決」のスキルを獲得することができる.

2.2 計画・方法

上記の仮説を立証するために目標設定シートを開発し, 目標設定シートの妥当性を検証するためにアンケートの実施や目標設定シートに書かれた文章の分析, 選手へのインタビューを行った. このような分析を行うことで目標設定シートの評価を数値という客観的なデータとして獲得し, 選手へのインタビューを行うことで生の声を聞くことで目標設定シートの効果を検証することができる.

第3章 プログラムの実践

目標設定シートは時期と目的に合わせて合計3回実施した。以下実施内容である。

3.1 意識改革プログラム（資料1）

（3日間短期集中プログラム）

3.1.1 実施目的

合宿という練習に打ち込むことができる期間を利用することで、目標設定という作業に慣れることを目的としている。また当日の反省を翌日に活かし、合宿を充実した内容にすることを目的としている。

3.1.2 実施日

2007年8月3日～8月5日（夏期合宿期間）

3.1.3 対象

都内私立中学校サッカー部に所属する男子学生124名

3.1.4 目標設定シート内容

意識改革プログラムでの目標設定シートは夏期合宿用に作成したため、3日間の短期プログラムとなっている。そのため内容はとてもシンプルなものにし、選手が負担にならない分量でシートを作成した。

1枚目のシートでは、現在までの自己分析を行いその反省を元に今回の合宿で達成すべき目標を宣言するように作成した。ただ単に合宿に参加するのではなく、個人個人が目標をもち有意義な時間を過ごすことを意図している。また自身で設定した目標を宣言として記入することで、目標に対するモチベーションを向上させる働きも意図している。

2枚目,3枚目のシートでは,一日単位での振り返りを行うように作成した.内容としては初日に設定した目標の振り返りである.良かった点,悪かった点をそれぞれ端的に書き出す.良かった点は今後も継続させ,悪かった点は書き出すだけでなく問題解決の論理思考にしたがって原因を突き止めていけるようにシートを作成した.解決策までを自分で考え,翌日にその反省を活かすことを目的としている.

4枚目では合宿を終えての全日程の振り返りを行う.初日に掲げた目標に対し,日々どのように取り組みどのような気づきが得られたのかをまとめる.

最後の5枚目では合宿の反省を今後どのように活かすか自身で整理し,合宿用シートの総括を行う.また最後にはスタッフである監督やコーチからのコメント欄を設けている.このコメント欄を設けた理由は二つある.まず選手に対し合宿中の取り組み方やサッカーに関するアドバイスを記入することで選手へのフィードバックとなり,より競技力を向上させることができると考えた.次に選手への目配り.124名という大勢の選手を数名のスタッフで管理するのはとても困難なことである.スタッフ陣の目の届く選手はおよそ半分くらいであるため,残りの選手は細かいところまでを見てもらうことはできない.しかしシートを利用しスタッフからのフィードバックをもらうことにより,自分も見られているという意識が芽生え,モチベーションの向上を促すことができると考える.

以上の点を意識し3日間という短期集中型での目標設定シートを作成した.

3.1.5 結果

目標設定シートの結果として,現場スタッフであるコーチの方から以下のコメントをもらった.

「初めてこのようなシートを行なったということで戸惑いも見受けられた.しかしながら比較的楽しみつつ行なっていたようだった.合宿というサッカーに集中できる環境で,プレイヤーとしての自分に真剣に向き合える機会を目標設定シートを通じて得たのではないだろうか.全体的に書かれている内容は抽象的で自己完結している文章が多かった.より他人にも分かるような具体性を持った文章を書けるようになることが理想だろう。」 (コーチ コメント)

初めて目標設定シートを実施した.全ての内容を埋めることはできていたが,

コーチのコメントにもあったように記述内容が抽象的なものが多かった。また目標を達成するための必要事項欄では、具体的に書けている選手と書けていない選手にはっきりと分かれていた。

3.1.6 考察

上記の結果から、まず目標を設定するという習慣のきっかけをつくることができた。今回は3日間という短期間であり合宿という特別な環境での取り組みであったため、比較的やる気は継続されたと考えられる。また全ての内容にもしっかり答えていたことから、内容的に難しいところはなく比較的取り組み易かったのではないかと考察する。しかし記述内容が抽象的という問題が生じた。この問題はプログラムに慣れていないことが一つの要因であると考えられる。プログラムを今後も継続するさせることで内容に具体性を帯びてくると考える。

【☆☆☆自己分析シート☆☆☆】



実施日：__月__日～__月__日

__年__組 氏名_____

【☆今できていること☆】

【☆今できていないこと☆】

【☆目標☆】

私は合宿が終わるまでに

を達成します！！

【☆目標達成に必要なこと☆】

- ① _____
- ② _____
- ③ _____



【第1日目】(月 日)

🏆振り返ろう (良かったところ)



🏆振り返ろう (悪かったところ)

悪い点(問題点)は、 	悪い点(問題点)は、
その原因は、 	その原因は、
問題を解決するには、 	問題を解決するには、

🏆明日の目標☆





____年 ____組 氏名_____

【第2日目】(____月 ____日)



🏆振り返ろう (良かったところ)

🏆振り返ろう (悪かったところ)

 	<p>悪い点 (問題点) は、</p> 	<p>悪い点 (問題点) は、</p> 	 
	<p>その原因は、</p> 	<p>その原因は、</p> 	
	<p>問題を解決するには、</p> 	<p>問題を解決するには、</p> 	

🏐 明日の目標☆

【第3日目】（ 月 日）

合宿を通して・・・



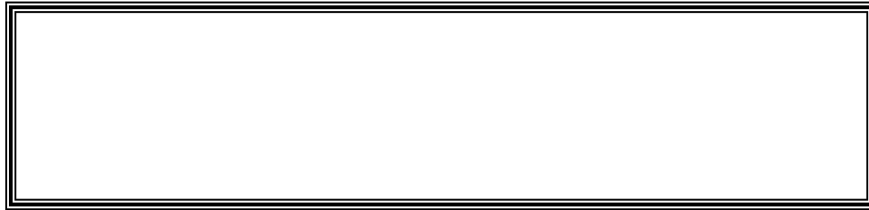
☆できるようになったこと
（成長したこと）

- ① _____
- ② _____
- ③ _____

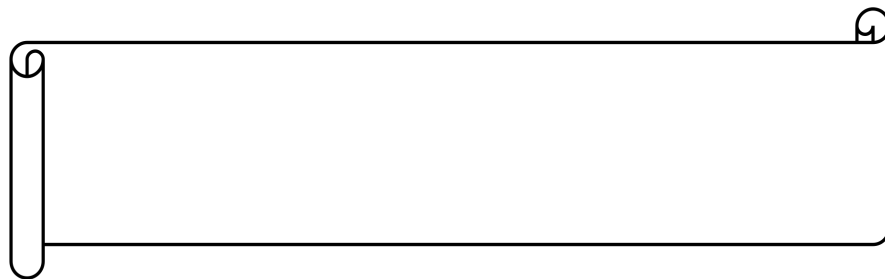
★できていなかったこと（不十分なこと）

- ① _____
- ② _____
- ③ _____

《これからの目標！！》



【☆☆☆スタッフからコメント☆☆☆】



3.2 自己管理プログラム（資料2）

（2週間中期プログラム）

3.2.1 実施目的

自己管理プログラムでは、前回のプログラムで身につけた目標設定シートの内容を継続させること、そして練習のない期間も自己管理をしっかり行うことを目的としている。また前回の考察から記述内容が抽象的という問題を克服するため、ある程度の期間を設け作業に慣れてもらうことを目的としている。そして振り返りの要素を記述だけでなくグラフに表し目標達成度を数字で表現することで、継続意識を植え付けると共に振り返りを行い易くすることを目的としている。

3.2.2 実施日

2007年8月中旬～9月初旬

3.2.3 対象

都内私立中学校サッカー部に所属する男子学生 124名

3.2.4 目標設定シート内容

自己管理プログラムでは2週間から3週間の期間で実施するものであり、この期間には練習のある期間とない期間がある。この期間をうまく自己管理してもらうために作成したシートであると考えられる。

一枚目では第1回目に行った目標設定シート同様、目標を掲げ達成に必要な要素を書き出す。やはり漠然と目標を立てるのではなく、文字として書き出し宣言することで意識も変わってくる。

二枚目のシートでは日々の小目標の設定を行い、一日を4段階で評価するよう作成した。また一日を振り返るための欄を設けることで、日々の目標に対しての自己の反省ができる。つまり日記のような機能を果たす。

三枚目ではグラフを利用し日々の評価を折れ線グラフに表すことで、自分の目標に対する取り組みを視覚的に把握できるようになっている。このグラフにより

自分自身を戒め長期的にモチベーションを維持することを意図している。また総合的な振り返りを行うことで、全体としての自分の弱み、強みをあらいだすことができる考える。

最後の四枚目では第一回実施シートと同様今後の取り組みやスタッフ陣からのコメント欄を設けている。

3.2.5 結果

目標設定シートの結果として、現場スタッフであるコーチの方から以下のコメントをもらった。

「選手によってシートに対する参加の態度が異なるのが非常に感じられた。積極性が感じられる選手のシートとして、目標の設定が切実感を持っているもの、細かく「一日の振り返り」が書かれているものが挙げられる。そのような選手は普段の練習においても積極性が高い。ただ、シートの内容が積極的かそうでないかで、その選手のサッカーにおける評価を行わないというルールを明確にしなければシートが指導者側へのアピール道具になる可能性も感じられた。」

(コーチ コメント)

今回の目標設定シートは中期的な期間で行ったため、前回よりも選手のモチベーションの差が出てしまうという結果になった。またモチベーションの低い選手に関しては、徐々に記述内容が適当になっていき、やっつけ作業のようになっていたようにも感じられた。一方、モチベーションの高い選手に関しては、日々の反省をしっかりと行い問題点を意識し、翌日の内容に反映していた。またグラフもしっかりと作成しており、プログラムを効果的に利用しているように感じられた。

3.2.6 考察

上記の結果から、まず中期の目標設定シートは先週にとっては面倒なものになってしまうということが分かった。本来目標設定シートは自分自身を管理するための一つ的手段として作成したが、一部の選手にとっては宿題のようになってしまっていたようである。この原因としては、毎日の振り返りを行う欄をつくったことが考えられる。毎日記入するという作業は選手にとっては重荷にな

ってしまい、その結果シートそのものが作業するためのものとなってしまっていた。一方グラフに関しては、どの生徒もしっかり記入しており、グラフをかくことで自分自身の日々を振り返りモチベーションを維持していた選手もいたようであった。

【☆☆☆自己分析シート☆☆☆】

____年____組 氏名_____

[に向けての目標☆]

私は

を達成します！！

目標達成のために・・・

[☆OFF 期間にやること☆]



*

*

*

[☆練習期間にやること☆]

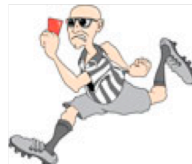
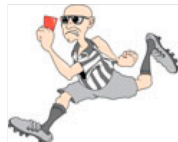
*

*

*

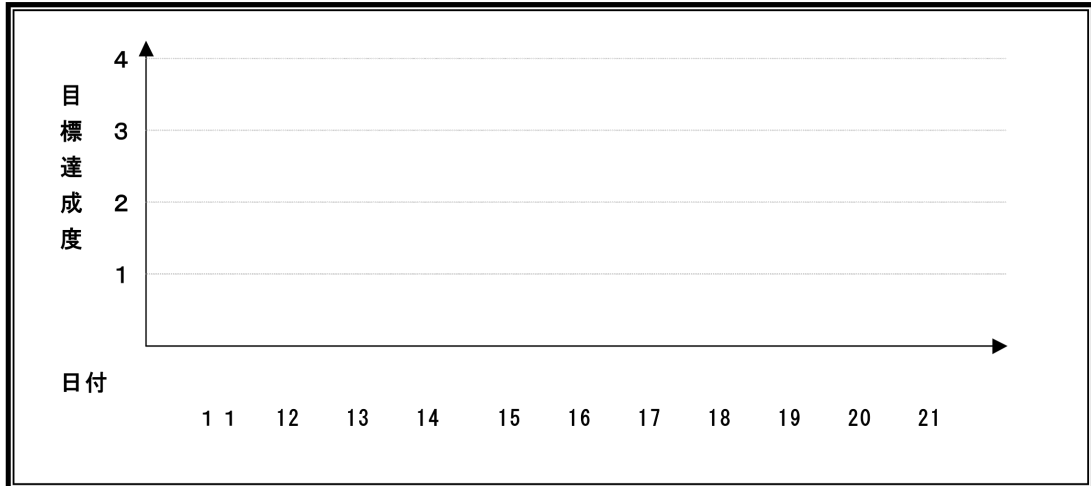
[☆計画表☆]

目標を達成するための計画を立ててみよう！計画は自分にとって無理のないように立てよう！



日付	今日の目標（テーマ）	目標達成度	一日の振り返り
8月11日		1 2 3 4	
12日		1 2 3 4	
13日		1 2 3 4	
14日		1 2 3 4	
15日		1 2 3 4	
16日		1 2 3 4	
17日		1 2 3 4	
18日		1 2 3 4	
19日		1 2 3 4	
20日		1 2 3 4	
21日		1 2 3 4	
		1 2 3 4	
		1 2 3 4	
		1 2 3 4	
		1 2 3 4	


[☆グラフを作ってみよう（折れ線グラフ）☆]



[☆振り返り（夏休みを振り返って・・・）☆]

☆成長できたところ

- ◎
- ◎
- ◎



★まだ足りていないところ

-
-
-

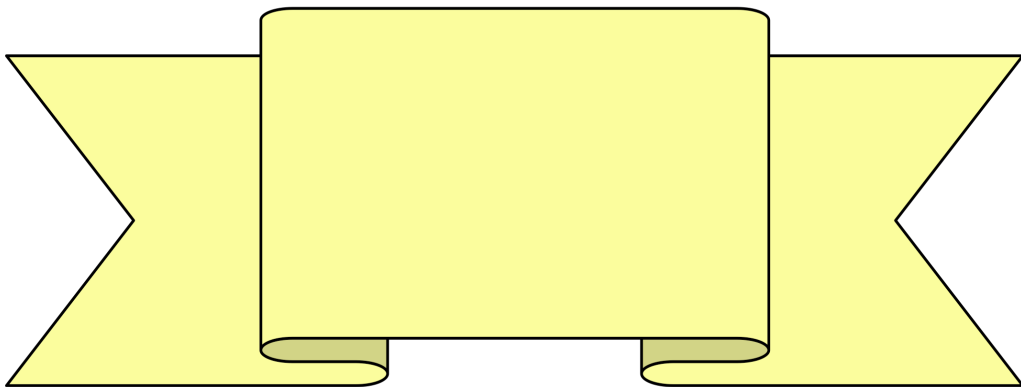
[☆☆今後の目標☆☆]

夏休みに学んだこと・経験したことを今後の部活動や日常生活
に活かしていこう！！



A large, empty rectangular box with rounded corners and a double-line border, intended for writing goals.

[☆☆☆☆☆スタッフからのコメント☆☆☆☆☆]



3.3 習慣化プログラム (資料3)

(1ヶ月長期プログラム)

3.3.1 実施目的

習慣化プログラムでは、長期間に渡って目標設定シートを実施することでプログラム内容を習慣化させることを目的としている。また一週間単位で振り返りを行い、その反省を次週に活かし、段階的に成長していくことを目的としている。

3.3.2 実施日

2008年1月中旬～(約一ヶ月)

3.3.3 対象

都内私立中学校サッカー部に所属する男子学生124名

3.3.4 目標設定シート内容

今回のシート内容はとてもシンプルなものとなっている。具体的な内容としては、始めに一ヶ月での目標設定を行い、その後一週間単位で小目標を設定する。ここでは振り返りとしてグラフを利用し、一週間での自身の出来を視覚的に振り返ることができるようになっている。また前回の考察を活かし、今回は一週間での振り返りを行うように作成し、選手に対する負担の軽減を行った。

そして最後には一ヶ月全体の振り返りをチームと個人それぞれにおいて行い、その内容を今後活かすように作成した。

3.3.5 結果

目標設定シートの結果として、現場スタッフであるコーチの方から以下のコメントをもらった。

「今までとは異なる1ヶ月という期間の自己分析シートであった。選手が書いた

内容を見ていると、初めと終わりの週はきちんと書いている一方で、中盤のグラフなどでは中だるみしている様子も多く見受けられた。しかしながらシートを終えた後に振り返る作業を行なうことで、そのこと自体も学びの材料になっていた。長い期間でのシートは面倒だという点がある一方で、振り返りの要素が強くなり良い影響もあった。」

(現場コーチ コメント)

やはり一ヶ月という長い期間で行うと、選手によっては面倒なものとなってしまい、途中シートに対する意識が薄れてしまうことがあった。しかし目標設定に関しては以前よりも内容が具体的になり、自己に対する深い分析ができていたことが見受けられた。また、過去2回のプログラム実施に比べて、長期で行ったことによってマクロの視点で振り返りを行うことができた。

3.3.6 考察

今回のプログラムを実施した結果、目標設定シートの長期間での実施は少なからず選手の負担になってしまっていることが分かった。シート内容をシンプルに作成しただけでは負担の軽減にならない。期間を設けるとそれだけ集中力の継続が必要であるため、長期でのシート実施はなるべく避けるべきであるという考察に至った。

一方で、期間を長期に設定することで振り返りの内容には新しい発見があった。それは長期間での自身の目標に対する取り組み方が、グラフによって一目で分かるようになったということである。その結果自分はどのくらい集中を継続することができるのかが分かるようになり、目標の設定の仕方に参考になるものとなった。

(資料 3) 習慣化プログラム 目標設定シート

ライフスキルシート

年 組 _____

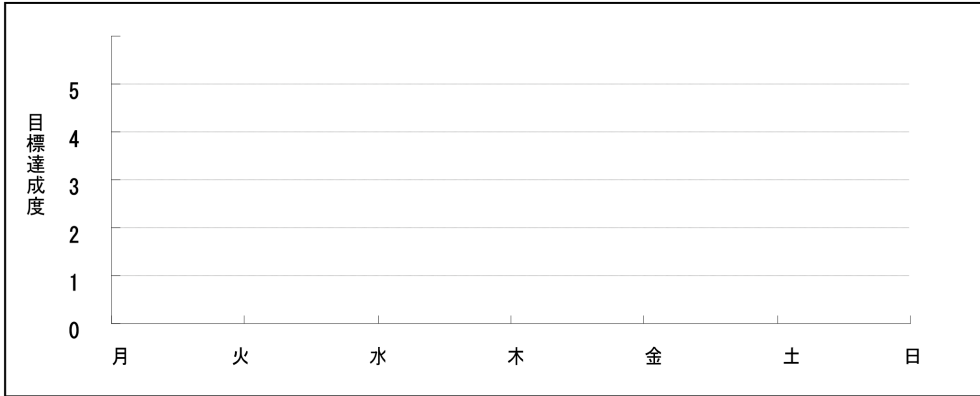
◆ 今月のチームのテーマ

◆ 今月の自分のテーマ

* テーマ達成のために必要なこと (個人)

◇第1週目（月 日～月 日）

☆ _____

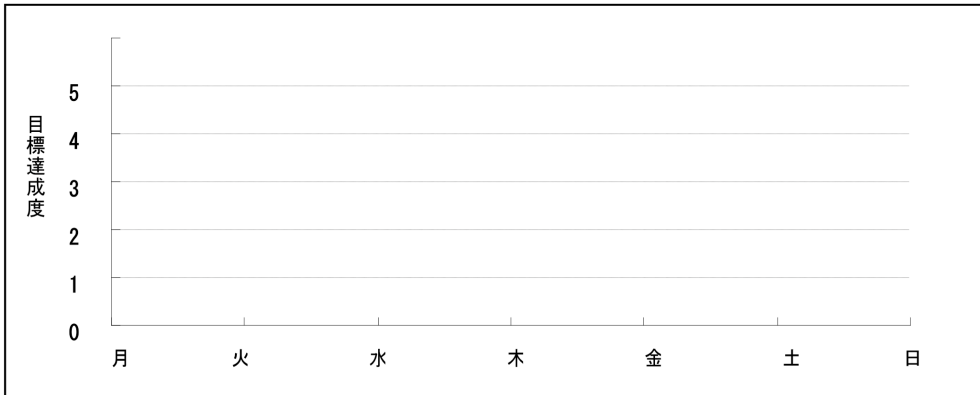


今週の振り返り



◇第2週目（月 日～月 日）

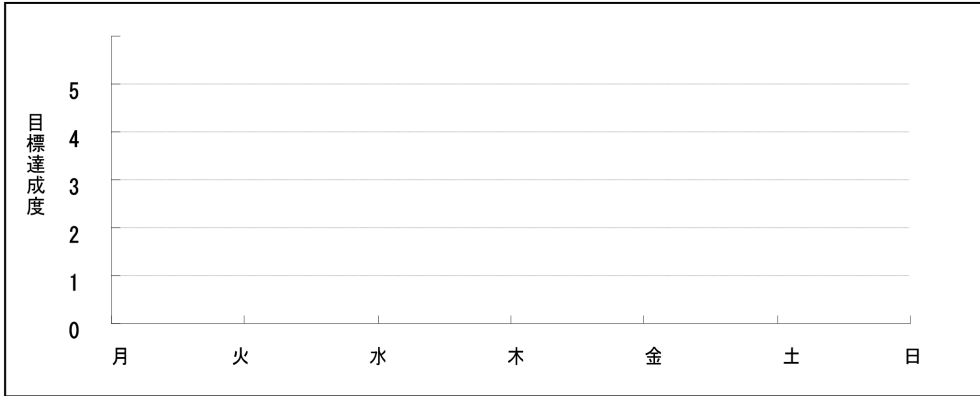
☆ _____



今週の振り返り

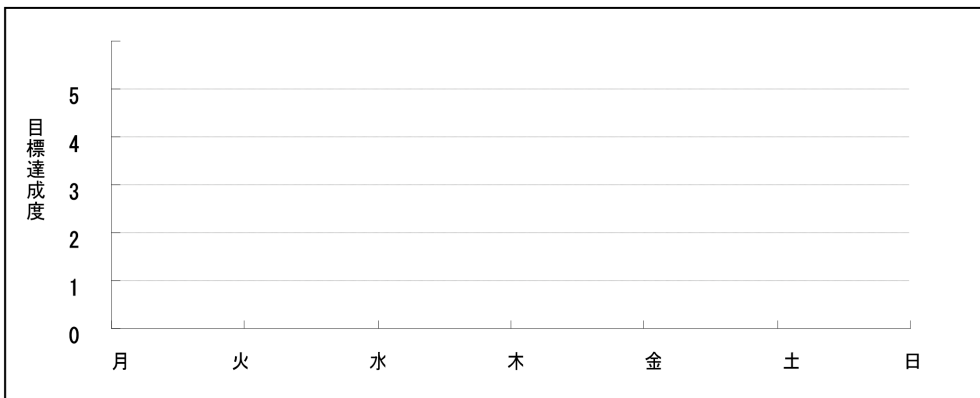


◇第3週目（ 月 日～ 月 日）



今週の振り返り

◇第4週目（ 月 日～ 月 日）



今週の振り返り

◆ 4週間の振り返り

* チーム

できたこと	できなかったこと

* 個人（自分）

できたこと	できなかったこと

◆ これからのテーマ（個人）

--

第 4 章 検証

4.1 アンケートによる検証

3 回に渡って行ってきた目標設定シートの効果を測定するためにアンケート(資料 4)を実施した。アンケートは東京工業大学 LSP 研究会により作成されたものを使用した。このアンケートは 66 項目からなる因子分析後の信頼性のあるものであり、内容はアスリートとして必要なスキルや心構えに関するものである。このアンケートを用いて目標設定シートの効果測定を行った。

4.1.1 カテゴリー間における平均値の比較 (資料 5)

アンケート実施後再び因子分析を行い、研究対象である中学校の独自の因子を抽出した。その結果 66 項目のアンケートから 22 項目が選出され、3 つの因子に分類されるという結果を得た。(資料 5)

それぞれの因子には項目毎の特徴をとらえた名前を設定した。まず第一因子においては練習における課題設定や反省という内容から「目標設定」と名付けた。つぎに第二因子においては規則の遵守や自分自身に対する謙虚さという内容から「自己認識」と名付けた。最後に第三因子においては挨拶や言動に対する内容から「礼儀」名付けた。

また、3 つの因子に分類された項目のそれぞれの平均値を算出し、因子ごとの数値をレーダーチャートに表した。このアンケートの平均値の比較は 3 回行い、それぞれの結果を比較した。(資料 6～資料 8 参照)

◆アンケート実施時期

- ・第 1 回アンケート：2007 年 8 月 3 日
- ・第 2 回アンケート：2008 年 1 月下旬
- ・第 3 回アンケート：2008 年 5 月中旬

◆結果と考察

(1) 第1回・第2回アンケート平均値比較

「礼儀」意外の要素に関しては数値が上がっている。約半年という期間であったが、シートに慣れてきたということも結果に結びつく一つの要因であると考えられる。初めのうちはシートを書くことに集中してしまうが、徐々に慣れてくることでシートに書いた内容を自然と練習の中に取り入れることができるようになってきたと考えられる。

一方で半年という期間を要したにしては数値的な伸びがないという視点も考えられる。この考察に関しては、シートの効果はすぐにはなかなか表れず、継続することによって結果がついてくると捉えることができる。競技力の向上や個人意識改革はすぐに結果としては表れにくいので、プログラムを継続させることで定着し、個人個人の力となると考える。

(2) 第2回・第3回アンケート平均値比較

前回の第2回に比べて「目標設定」と「礼儀」の数値が向上している。

「目標設定」に関しては、約半年間に渡って行ってきた自己分析シートの効果であると考えられる。単発ではなく継続させてシートを実践することにより、目標を設定することが習慣化された。またシートの一面に目標を宣言することで自らに言い聞かせ普段からその目標に取り組むことができるようになってきた。

「礼儀」に関してはスポーツマンシップに値するところであるが自己分析シートが直接的に関与したかどうかは数値からは判断できない。しかしスタッフが意識していたことは事実である。自己分析シートによる意識向上の機会を利用しスポーツマンとしての礼儀も同時に教育することで総合的にスキル上達を図ることができると言える。

一方「自己認識」に関しては若干ではあるが数値に下がりがみえる。この要因として考えられることはシート内容への固執である。自分自身で目標を設定し目標達成に取り組む過程まではよいが、自身に集中するあまり周囲の人との関連性が若干希薄になったと考えられる。しかし現場スタッフに現状を聞いてみたところ、数値が示すような変化は特になく、統計上あらわれた誤差ととらえる見解のほうが優勢であるとも感じられる。

アスリートの 競技場面と日常に関 するアンケート調査

お願い

このアンケートは、みなさんの競技力向上のサポートにつながる、基礎的資料の収集を目的として実施されるものです。内容は、主に競技場面や日常生活場面における行動に関するものです。なお、回収した資料は、全体的な傾向の統計的分析による、本アンケート用紙に記載されている質問項目の精選に使用されます。また、回答に際しては、個々の質問には深く考え込まず、第一印象を大切に回答するようにして下さい。

すべての回答に要する時間は約15分です。氏名を記入する必要はありません。
ご協力よろしくお願いします。

アスリートのためのライフスキルプログラム研究会
心理班ワーキンググループ

調査を始める前に、まず下の枠内に記入して下さい。

年齢	_____ 歳	競技種目	_____
性別	男性・女性	経験年数	_____ 年

■ 以下の文章に対して、競技場面と日常生活場面における様子を振り返りながら、自分に最も当てはまる数字に○を付けて下さい。また、必ずしも望ましいことばかり書かれていませんので、注意して回答して下さい。

- | | |
|-------------------------------------|---------|
| 1 練習後に、不得意なスキルを自ら率先して練習している..... | 1 2 3 4 |
| 2 誠実な態度でプレーに臨んでいる..... | 1 2 3 4 |
| 3 練習ごとの意図を理解している..... | 1 2 3 4 |
| 4 試合に負けた時、仲間や審判のせいにする..... | 1 2 3 4 |
| 5 お互いにミスや欠点を注意し合っている..... | 1 2 3 4 |
| 6 自分の意見をきちんと言える..... | 1 2 3 4 |
| 7 現在の自分があるのは周りのおかげだと思う..... | 1 2 3 4 |
| 8 将来どういう人間になりたいか考えている..... | 1 2 3 4 |
| 9 アルコールやタバコは控えている..... | 1 2 3 4 |
| 10 試合に向けて、よいイメージを持つようにしている..... | 1 2 3 4 |
| 11 課題克服のための練習を重視している..... | 1 2 3 4 |
| 12 ルールの精神を尊重している..... | 1 2 3 4 |
| 13 チームにおける自分の役割を理解している..... | 1 2 3 4 |
| 14 試合の負けから得た教訓を今後に活かしている..... | 1 2 3 4 |
| 15 競技以外でも仲間と交流している..... | 1 2 3 4 |
| 16 チームにおける規則を守っている..... | 1 2 3 4 |
| 17 競技で使う道具は大切にしている..... | 1 2 3 4 |
| 18 日々の練習の中にも目標や課題を設けている..... | 1 2 3 4 |
| 19 トレーニング、休養、食事、睡眠のバランスが保たれている..... | 1 2 3 4 |
| 20 悩み事は一人で抱え込まず、誰かに相談している..... | 1 2 3 4 |
| 21 日常生活を競技場面の延長としてとらえている..... | 1 2 3 4 |
| 22 反則されても仕返すようなことはしない..... | 1 2 3 4 |
| 23 自分が克服すべき課題を理解している..... | 1 2 3 4 |
| 24 自分の失敗を素直に認めている..... | 1 2 3 4 |

25	仲間からの相談を親身になって聞いている	1 2 3 4
26	間違っていることは、はっきり違うと言える	1 2 3 4
27	自分の競技の楽しさを周囲に伝えることができる	1 2 3 4
28	目標は小さいものから大きなものまで段階的に持っている	1 2 3 4
29	バランスの取れた食事をしている	1 2 3 4
30	自分なりのストレス解消法を実践している	1 2 3 4
31	困難な課題、状況であっても最後まで諦めない	1 2 3 4
32	練習、試合会場(グラウンド、ロッカー、シャワーなど)の整理整頓ができる	1 2 3 4
33	目標を達成するための具体的方法を考えている	1 2 3 4
34	自分が負けた時でも素直に相手を賞賛する	1 2 3 4
35	自分の悩みを素直に打ち明けている	1 2 3 4
36	与えられた役目は、責任を持って最後までやり遂げる	1 2 3 4
37	「ありがとう」の気持ちを自然に表現できる	1 2 3 4
38	一週間や一ヶ月、半年単位と、ある期間ごとに目標を立てている	1 2 3 4
39	練習や試合に向けた調整方法を理解し、実践している	1 2 3 4
40	困難な状況でも笑顔を忘れない	1 2 3 4
41	相手が誰であれ、全力で取り組んでいる	1 2 3 4
42	感情的な威嚇や挑発行為、言動を行わない	1 2 3 4
43	自分自身やチームの長所や短所を理解している	1 2 3 4
44	たとえ負けたときでも試合終了の挨拶はきちんとできている	1 2 3 4
45	仲間が困っていたら言葉をかけている	1 2 3 4
46	練習の時間に遅刻してしまう	1 2 3 4
47	会場に応援に来てくれた人にはきちんとお礼を言う	1 2 3 4
48	目標を達成するための計画を立てることができる	1 2 3 4
49	自分の適正体重を把握している	1 2 3 4
50	物事は建設的に考えている	1 2 3 4
51	練習・試合に向けての用意周到な準備を怠らない	1 2 3 4

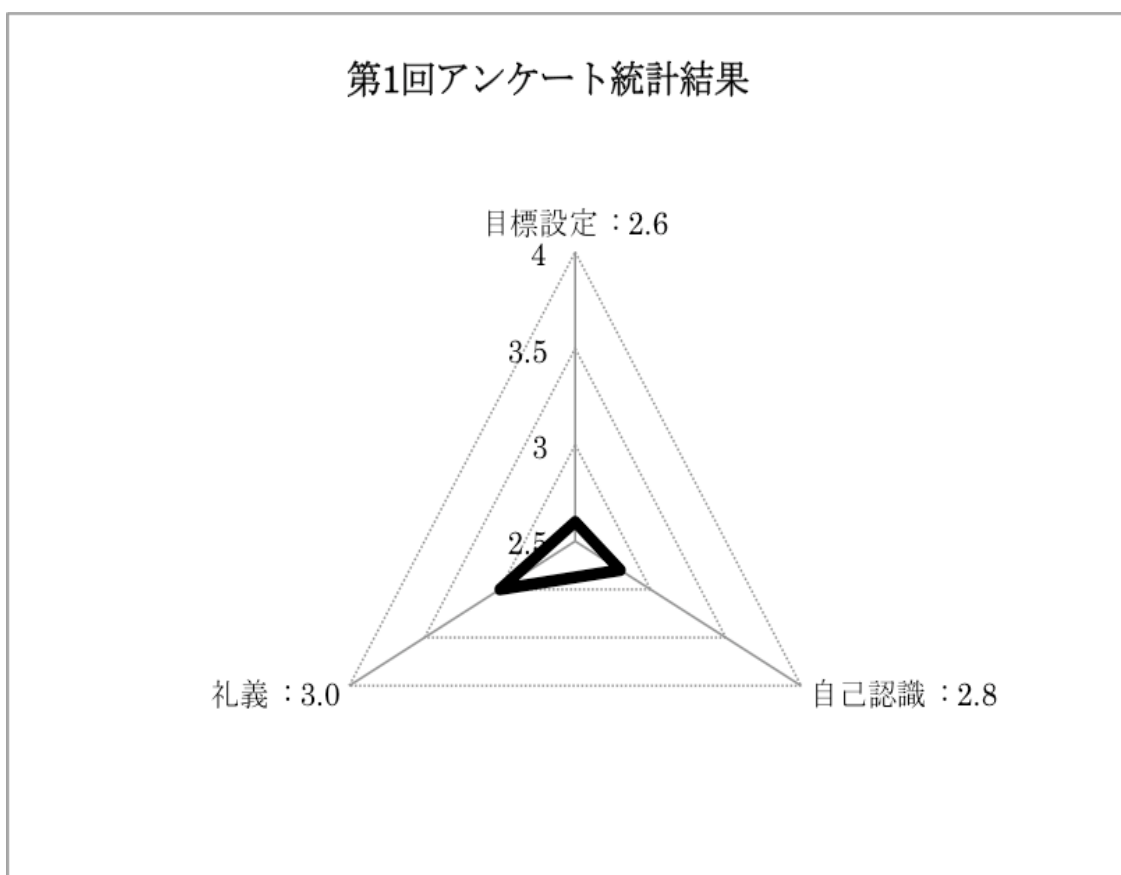
5 2	相手や審判に失礼になるようなことはしない.....	1 2 3 4
5 3	試合後には、何が勝因または敗因だったのか分析している.....	1 2 3 4
5 4	試合に勝っても、いつまでもそのことで浮かれない.....	1 2 3 4
5 5	仲間といるときでも自分勝手に行動する.....	1 2 3 4
5 6	嘘はつかない.....	1 2 3 4
5 7	常に謙虚さを持つようにしている.....	1 2 3 4
5 8	朝食は欠かさず食べている.....	1 2 3 4
5 9	結果(過去)は取り戻すことはできないものと割り切っている.....	1 2 3 4
6 0	常に課題を持つようにしている.....	1 2 3 4
6 1	日常的な挨拶が自然にできている.....	1 2 3 4
6 2	自分の行動がチームや社会にどのような影響を与えるか意識している.....	1 2 3 4
6 3	必要に応じて敬語を使っている.....	1 2 3 4
6 4	自分のことだけでなく、周囲の世話や後輩の指導もしている.....	1 2 3 4
6 5	試合中に相手に野次を飛ばすようなことはしない.....	1 2 3 4
6 6	自分のミスであれば言い訳はしない.....	1 2 3 4

以上で調査は終了です。最後に記入漏れの箇所がないか確認をお願いします。
ご協力ありがとうございました。

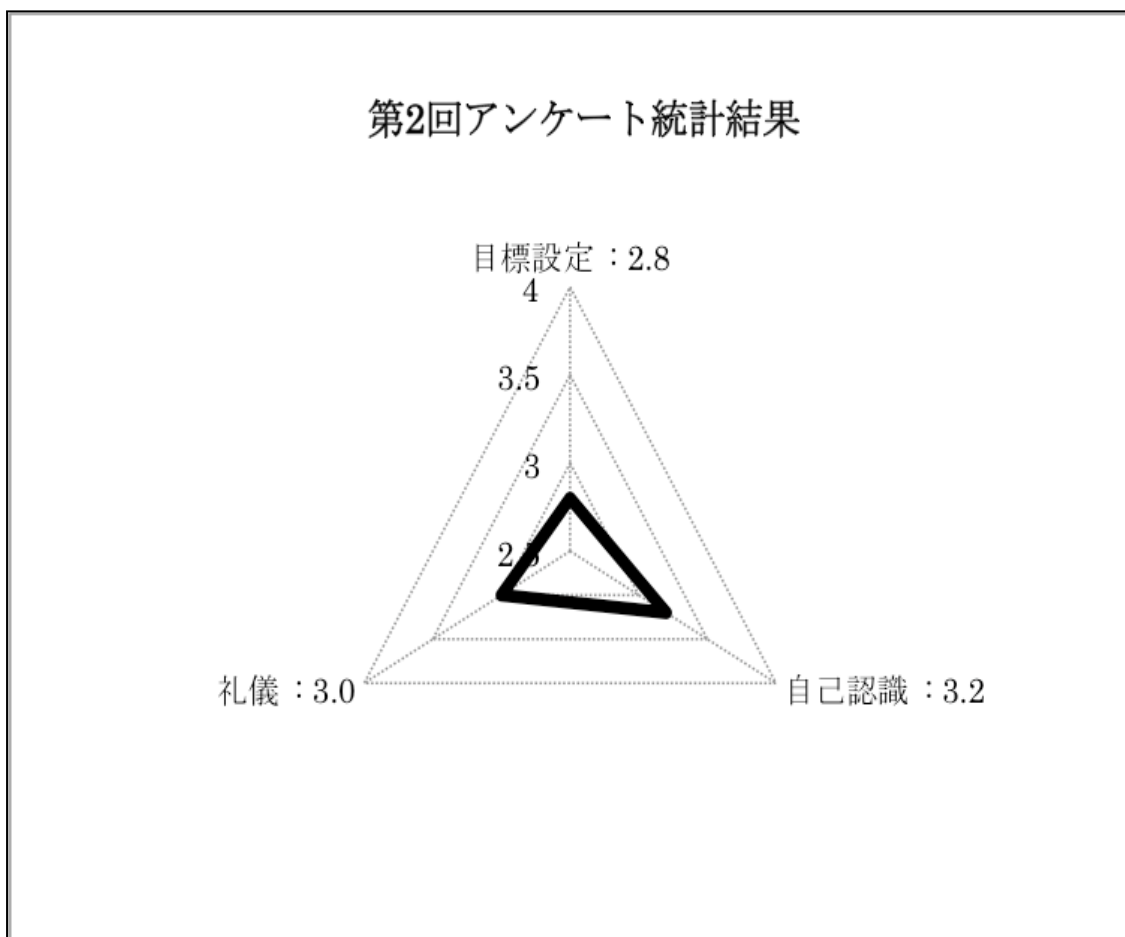
(資料5) アンケート因子分析結果

	因子			
	1	2	3	4
目標設定				
練習毎の意図を理解している	0.7440778	-0.05326	-0.1724	-0.033077
日々の練習の中にも目標や課題を設けている	0.6843154	-0.200014	0.0954647	0.2630215
練習・試合に向けて用意周到な準備を怠らない	0.6714545	0.1944931	-0.086954	0.0312913
練習や試合に向けた調整方法を理解し、実践している	0.6582403	0.0719493	-0.010613	-0.23444
試合の負けから得た教訓を今後に生かしている	0.5591053	0.0388564	0.0132133	0.0063097
嘘はつかない	0.4387854	-0.13001	0.1993353	-0.252862
目標を達成するための具体的方法を考えている	0.4248531	-0.015759	-0.006997	0.0411169
自己認識				
常に謙虚さを持つようにしている	-0.131335	0.6093876	-0.027618	-0.107366
チームにおける規則を守っている	0.2006508	0.5736663	0.0960475	0.1472014
競技で使う道具は大切にしている	-0.015917	0.5503309	0.1721552	0.0545708
自分の行動がチームや社会にどのような影響を与えるかを意識している	-0.00266	0.5304858	-0.108837	0.3336908
仲間からの相談を親身になって聞いている	0.1007118	0.5192184	-0.156074	-0.003082
困難な課題、状況であっても最後まで諦めない	0.1007611	0.510425	-0.095645	-0.006824
『ありがとう』の気持ちを自然と表現できる	-0.043682	0.4817028	0.1846482	-0.063002
試合に勝っても、いつまでもそのことで浮かれない	-0.163283	0.4354575	0.1301718	-0.145202
現在の自分があるのは周りのおかげだと思う	-0.050156	0.4297559	-4.11E-05	0.0193512
礼儀				
相手や審判に失礼になるようなことはしない	-0.136126	0.0280097	0.8626671	0.0898696
たとえ負けた時でも試合終了後の挨拶はきちんとできている	0.0021837	-0.022873	0.6643623	0.1744037
感情的な威嚇や挑発行為、言動を行わない	-0.051133	0.0478994	0.5758282	-0.051359
反則されても仕返すようなことはしない	0.0980219	-0.097699	0.5205219	-0.180737
誠実な態度でプレーに臨んでいる	0.1255915	0.2403605	0.4251702	-0.016847
自分が負けたときでも素直に相手を賞賛する	-0.067288	0.0184625	0.4213974	-0.073773
会場に応援に来てくれた人にはきちんとお礼を言う	-0.062962	0.0915817	0.1026658	0.5225603
自分の競技の楽しさを周囲に伝えることができる	-0.047108	0.0051691	-0.044974	0.5849204
お互いにミスや欠点を注意しあっている	0.0136695	-0.111436	-0.047797	0.7954098

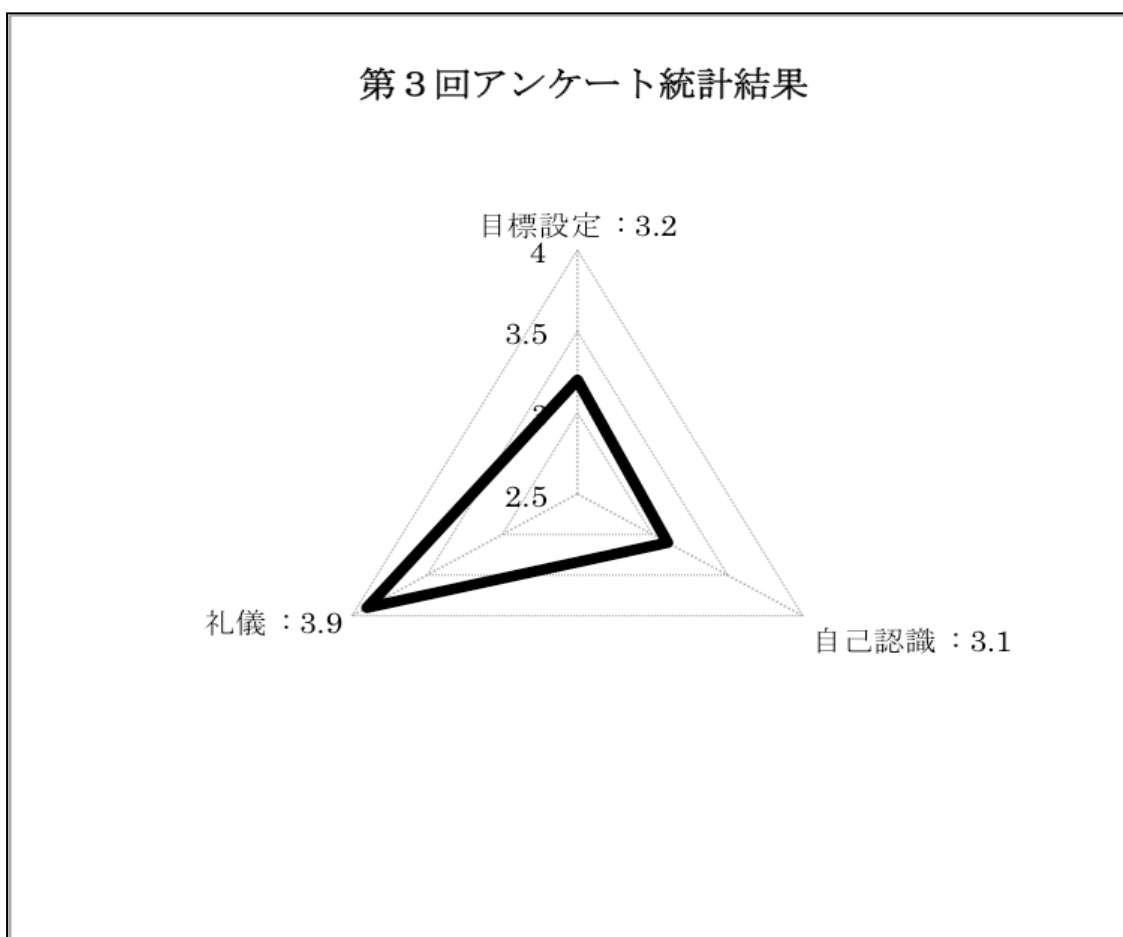
(資料 6) 第 1 回アンケート統計結果



(資料 7) 第 2 回アンケート統計結果



(資料 8) 第 3 回アンケート統計結果



4.1.2 t 検定による各項目間での比較 (資料 9～資料 10)

アンケートにおける各質問項目間での関連性を調べるために t 検定を行った。

(1) 第 1 回・第 3 回アンケート比較

◆結果

t 検定の結果, 関連性があると分析された質問項目とそれぞれの平均値の関係は以下のようなになった。

◆第 1 回・第 3 回アンケート項目 平均値の比較

	第 1 回	第 2 回	F 値
質問 3: 練習毎の意図を理解している	3.1	2.8**	10.335
質問 29: バランスのとれた食事をしている	2.8	3.15*	0.063
質問 66: 自分のミスであれば言い訳をしない	2.51	3.27**	2.044

(* p<0.001 *p<0.05)

◆考察

まず質問 3 においては数値が下がっている。その要因としては自分が設定した目標と練習内容との相互の関係がうまくできていないと考えられる。自分で立てた目標に必要な要素は理解しているが、その要素と用意された練習メニューの要素がうまくリンクしていない。選手に自ら練習の意図を理解させることも大切ではあるが指導者が意図を理解させることも必要である。

次に質問 29 においては、目標設定シートを行った結果生じたものとは別の要因が考えられる。この結果の考察はインタビューによる検証で明らかになった。

最後に質問 66 においては自己分析がうまくできていると考えられる。これはシートがうまく機能していると捉えることができる。

(2) 第 2 回・第 3 回アンケート比較

◆結果

t 検定の結果, 関連性あるがあると分析された質問項目とそれぞれの平均値の関係は以下ようになった.

◆第 2 回・第 3 回アンケート項目 平均値の比

	第 2 回	第 3 回
質問 10: 試合に向けて良いイメージを持つようにしている	3.41	3.11

◆考察

質問 10 においては数値が下がっている. この点を現場のスタッフに聞いたところ, 選手のメンタル面を指摘していた. 試合前になると緊張感のため本番の試合では本来の力がなかなか出だせていないという状況が見受けられるという. この点においては本研究で行っているシートは直接的には関連していないが, 選手一人一人が目標達成することで自身に繋がりその結果メンタル面も強化できるのではないかという考えである.

4.2 ポラリスによる検証 (資料 9)

目標設定シートを行ってきた結果,選手の目標設定に対する記述内容にどのような変化が生じたのか検証するため,言語分析を行うポラリスを利用し言葉の繋がりや関係性を分析した(2003.大澤).ポラリスの分析の対象とした資料は,2007年8月・10月・2008年2月に行った目標設定のみを記述してもらった紙である.

4.2.1 分析ソフト

ポラリスのソフトは以下の URL である.

<http://www.chokkan.org/software/polaris/#id4713690>

4.2.2 実施日

2008年1月下旬

4.2.3 結果と考察

まず8月の分析結果を見てみると技術面に関する記述とフィジカル面に関する記述が断絶しており,両者を関連づけて考えていないことが分かる.当時はシートを初めて行った時期でもあり,目標設定内容が一つのテーマに偏ったかたちで書かれていた.また言葉の表現も抽象的で具体性に欠けていた.

しかし10月の分析結果を見てみると,8月の分析結果に比べ技術面における記述内容が具体性を帯びていることが分かる.これは自分自身に対する分析をより深く掘り下げ,具体的な取り組みを行っているということを示している.目標設定シートの取り組み方に徐々に慣れてきたことが分かる.

2月の分析結果では若干ではあるが技術面とフィジカル面が融合している.以前までの完全に断絶されていた状態と比較すると目標設定シートによる選手の分析の視点の変化が表れている.シートを継続的に行うことで今まで孤立していたそれぞれの要素を自分なりに関連づけ,一つの事柄としてとらえることができるようになってきている.二つ以上の要素をリンクさせることで,より実践的な競技力を身につけることに繋がると考える.

4.3 振り返りによる検証

今まで行ってきた過去3回にわたる自身の目標設定シートを見ながら自由に振り返るという作業を行った。このプログラムには具体的なフォーマットはなく、各自が思ったこと、感じたことを自由に記述してもらおうという形式をとった。

4.3.1 実施日

2008年5月下旬

4.3.2 結果と考察

目標設定シートへの振り返りを行った結果、選手から以下のような見解を聞き取ることができた。

「正直、10ヶ月前の夏合宿のころに思い描いていた自分とはだいぶ異なる。
良い面でも悪い面でも。」

「自己分析シートに書いたことをまとめて練習メニューを決めることにした。」

「今までの自己分析シートを見て、全体的に、個人技の上達などを中心に自己トレーニングをしてきたと思う。それによって技術を上達したし、とても良かったと思う。」

上記のコメント内容からこの振り返りという作業を行うことによって過去の自分と現在の自分を繋ぐことができるということが分かった。そしてこの過去と現在を繋ぎ合わせることで新しい発見や気づき、今後における新しい目標設定へと関連づけていくことができる。言い換えるとこの作業は自分の過去を振り返ることでの自分自身という人間の再認識であり、この再認識は自分の歴史を振り返ることでもある。

4.4 インタビューによる検証

2007年から継続して行ってきたプログラムを総合的に評価するため、全てのプログラムを受けてきた20人の選手に対しインタビューを行った。

4.4.1 実施日

2008年12月18日(木)

4.4.2 対象

都内私立中学校のサッカー部に所属する男子学生20名

4.4.3 インタビュー内容

1. 過去3回のシートを行った感想
2. シートを使った結果、どのように変えようとしたか
3. 練習においてどのような意識の変化があったか
4. 食事を意識したか
5. 学校生活(勉強など)への影響はあったか
6. 試合の中で、シート内容が活かされた場面はあったか
7. シートの改善点
8. シートの良かった点

各質問内容は以下を意図して作成した。

1. においてはシートを実践してきた結果どのような印象を受けたか、直感で答えてもらうためにあえて大雑把な質問形式をとった。

2. においてはシートに書いた内容をどのように認識し、どのように取り組んだかを聞き出すことを目的とした。

3. においては自分で立てた目標を練習の中でどのように取り込んでいったのかを聞き出すことを目的とした。

4. においてはシートの内容とは関係ないが、(資料11)の質問29の内容に「バランスの取れた食事をしている」という項目が t 検定によって反応していたた

め、あえてインタビューにこの内容を盛り込んだ。

5. においてはシートでの作業工程を日常生活の場面（勉強など）に応用しているか聞き出すことを目的とした。

6. においてはシート内容が実践で活かされたかどうかを具体的な場面で聞き取ることで実践形式で活かされたかどうか、7, 8 では今後のシートプログラムの改良にあたっての参考意見を聞き取ることを目的とした。

4.4.4 結果

上記内容のインタビューを行った結果、選手から以下のようなコメントを得ることができた。

1. 過去3回のシートを行った感想

- ・「目標を立て、練習の中で意識するようになった。」
- ・「シートに書くことで振り返りの機会ができてよかった。」
- ・「目標をもって練習に取り組むことができた。」
- ・「練習がやりやすくなった」
- ・「次に何をしたら良いかわかるようになった」
- ・「練習をやる気になった」
- ・「様々な課題が見つかるようになった」
- ・「自分に合ったレベルで計画を立てることができた」

2. シートを使った結果、どのように変えようとしたか

- ・「利き足でない逆足の精度を高めるために、具体的な練習をした」
- ・「フリースペースにボールを蹴ることを意識した」
- ・「ポストプレーに挑戦した」
- ・「蹴り方を変えることによってボールのスピードに変化をくわえた」
- ・「欠点を意識し 次に活かした」
- ・「シュートフォームを意識した」
- ・「前日に反省を翌日の練習に活かした」

3. 練習においてどのような意識の変化があったか

- ・「目的を達成した意識ができ、さらに次の段階へと取り組めた」

4. 食事を意識したか

- ・「製薬会社の方の話を聞いてから意識するようになった」

5. 学校生活(勉強など)への影響はあったか

- ・「勉強に取り組む過程においても目標設定をした」
- ・「頭の中でやるべきことを組み立てた」

6. 試合の中で、シート内容が活かされた場面はあったか

- ・「パントキックが以前よりうまくなった」
- ・「スペースの意識が強くなった」
- ・「逆足を意識して使うようになった」
- ・「DFのカバーを意識してできるようになった」
- ・「トラップが以前よりうまくなった」

7. シートの改善点

- ・「練習内容を書く欄がほしい」
- ・「全員のグラフを集計したものがほしい(他者との比較)」
- ・「単発的ではなく、一年間の冊子にしてほしい」

8. シートの良かった点

- ・「毎日書くことでやる気になった」
- ・「コーチからのコメント欄がとてもよかった」
- ・「問題を解決するための方法がわかりやすかった」

4.4.5 考察

インタビューを行った結果、以下のことが確認された。

まずインタビューを通して、全ての選手がシートによる振り返りができる点をメリットと捉えていることが分かった。シートに文字として記録し、またその記録を資料として保管することで、過去の自分を振り返ることができ、今後の取り組みに活かすことができる。またシートを継続的に実施することで、目標を設定するという習慣が身に付いたことも大きな収穫である。

次にシートを利用することによる自己分析を通して、現在の自分のレベルを

把握することができ、そのレベルに合った目標を立てることで効率よく競技力を向上させることができることが確認できた。何も考えずに与えられた練習メニューをただこなすだけでは結果に結びつかず、時間を無駄に浪費してしまうと考えられる。自分のレベルを把握し、シートで掲げた目標をうまく練習に取り込むことが重要である。

また、シート利用後にどのように変えようと思ったかという質問に対して、それぞれの選手は具体的な例を挙げて説明していた。このコメントを聞いて、選手は目標達成するための具体的な方法をイメージとして捉え、イメージした内容をそのまま実践したと見受けられた。筆者が想像した以上に具体的な場面での考察を行っていることに驚かされた。

そして前述したように食事に対する意識についても質問を行った。シートには体調管理に関するテーマ設定は特に行っていないが、t 検定によるアンケート分析では数値が上がっていた。これは食事を以前より意識しているという結果を示している。この疑問を払拭するために選手に質問したところ、外的な要因が存在した。それはサッカー部が行った栄養管理に関する講義であった。この中学校では民間の製薬会社の方を招き、選手に対して栄養指導を行っていた。この講義が選手たちに栄養管理に対する意識を改革したと考えられる。実際インタビューの中でもこの講義以来食事に気を使うようになったという選手も多く存在した。この結果、外部講師による栄養講座は型上のものではなく、選手に多大な影響を及ぼすことも判明した。

全体として選手個人個人はとても積極的にシートに対し取り組んでおり、自己分析ツールとして機能していることがインタビューを通じて確認することができた。

第5章 結論

本研究はサッカーの競技力を向上させることを目的とし、その手段としてプロセス構築における目標設定に着目し研究を行ってきた。独自に目標設定シートを開発し実践してきた結果、目標設定シートを行うことで以下の要素を獲得することができることが分かった。

◆「機会」作り

今まで目標を設定し練習に取り組むという作業を行ってこなかった選手にとっては、目標設定シートは絶好の機会となった。自分で紙に目標を書き実行に移すだけではなかなか実行に移すことができず、形だけで終わってしまうということが予想される。またその目標に対する取り組み方も分からないという現象が起こることも考えられる。しかし目標設定シートを利用することで動機付けとなり、取り組み方のプログラムもシートに含まれているため継続して取り組むことができるようになると思う。動機付けとしての機会をつくるには大変効果的である。

◆「意識」の継続

目標設定シートを利用することで機会を与え、そして継続して取り組む意識を持たせることができる。始めはなかなか慣れない作業で不足要素が多くあるが、徐々に慣れてくることで自分自身の分析の仕方に慣れ、練習に対しても目的意識を持って取り組めるようになる。意識を植え付けるという効果も目標設定シートを行っていく過程で分かった。

◆「振り返り」による自己分析

目標設定シートによる最大の効果は過去の自分を振り返ることができるという点である。記録として自分が書いたシートを残しておくことで、現在の自分と過去の自分を比較することができる。比較することで自分がどのようにかわったか、または変わっていないかを判断する良い材料となる。自分自身の成長度合いを自分で確認することができるのである。つまりシートを利用した自己分析

を行うことができるということである。長い期間継続して行うことで自分の変化を確認し今後の方針に活かすことができるようになる。

上記の内容を更に強化して行くには更なる期間を要する必要があると考えられるが、初期段階としては多くの結果を出すことができた。本研究は今後も引き続き継続して行い、内容を煮詰めていきたい。

第 6 章 今後の課題

本研究を行ったことで、目標設定シートを利用することによって選手に自分自身の振り返りをする機会を与えることができるということが分かった。しかし本研究で行ったプログラムは不定期でプログラム自体が分散していた。今後は本研究での考察を生かし、年間を通しての振り返りが効率よく行えるように小冊子をつくっていくことが必要である。この小冊子によって自分の1年間の取り組みを記録に残すことで今まで以上の振り返りの効果が期待できると考える。

また目標設定シート自体が選手の負担にならないような仕組みをつくることも今後の課題として挙げられる。選手自ら取り組みたくなるようなものにしていかなければならない。そのためにもスタッフの方のフィードバックをしっかりと行い、選手とのコミュニケーションツールの一つとしての役割を担っていくように活用していかなければならない。

引用・参考文献

- 1) 杉山佳生 (2004) : 競技社会的スキル及びスポーツにおける個人・社会志向性と日常場面での向社会的行動との関係. 健康科学 Vol26. 42-46
- 2) 津田忠雄 (2007) : 大学教育とスポーツ競技を通じての教育-大学生アスリートとライフスキル教育プログラムの展開-. 近畿大学健康スポーツ教育センター紀要. 6 卷 1 号. 13-16
- 3) 上野耕平・中込四郎 (1998) : 運動部活動への参加による生徒のライフスキル獲得に関する研究. 体育学研究 43. 33-42
- 4) 井伊明日香 (2007) : 運動部活動参加におけるライフスキル獲得の特徴-中学生用ライフスキル自己評定尺度の開発を通じて-. 大阪体育大学紀要. 第 38 卷
- 5) 皆川興栄 : ライフスキルを核とした「総合的な学習の時間」カリキュラムの検討. 新潟大学教育人間学部紀要. 第 8 卷. 第 1 号
- 6) 松井秀喜 (2007) : 不動心. 新潮新書
- 7) 辻秀一 (2002) : ほんとうの社会力. 日経 BP 社
- 8) 播磨早苗 (2006) : 今すぐ使える! コーチング-プロコーチだけが知っている- にとっておきの方法. PHP 新書
- 9) 山本直人 (2004) : グッドキャリア. 東洋経済新報社
- 10) 高井信夫 (2007) : 仕事で人は成長する. かんき出版
- 11) 高橋俊介 (2008) : キャリアをつくる 9 つの習慣. プレジデント社
- 12) アスリートのためのライフスキルプログラム研究会 (2007) : アスリートのためのライフスキルプログラム
- 13) 関橋英作 (2008) : ブランド再生工場. 角川新書
- 14) 大澤幸生 (2003) : チャンス発見の情報技術-ポストデータマイニング時代の意思決定支援-, 東京電気大学出版局

謝辞

本研究を進めるにあたり、プログラムの開発から検証方法に至るまでの様々な御指導をして頂いた東海林先生に深く感謝致します。本当にありがとうございました。

また、本研究を共に行ってきた鈴木雄太君には現場コーチとしての視点などの様々な貴重な意見を頂き本当にありがとうございました。その他中学校サッカー部の関係者の方々には多忙にも関わらず研究に協力して頂き、ありがとうございました。深くお礼申し上げます。またアンケート調査、インタビュー調査に協力して頂いた中学校サッカー部員の方々にもお礼申し上げます。ありがとうございました。

東京工業大学 LSP 研究会の皆様にはアンケート原本の利用をはじめ大変お世話になりました。深く感謝致します。

同研究会の方々には様々な意見を頂き大変参考になりました。ありがとうございました。

最後になりましたが、これまでの私を支えてくれた家族に感謝致します。

2009年1月
佐瀬 宏樹